

— 総括表 —

地域の現状と今後の方向性

コロナの自粛期間を機に、また担い手不足の問題などから、縮小されたり再開できなかった地域活動もあり地域のつながりが希薄になってきている。住民同士の支えあいや見守り体制の構築などつながりを深め、誰もが安心して暮らせる釜利谷をつくるために、地域のニーズや動きを共有し必要な支援をケアプラザ全体で行っていく。
高齢者世帯や8050世帯が増える中、情報が行き届かず孤立する方がでないように、職員が地域に出る機会を増やしたり、ケアプラザ見学ツアーやインターネットを活用するなど周知の方法を工夫することで、ケアプラザは誰でも気軽に集える・相談できる場であるということを広く情報発信していく。

今年度の重点的な取組

新規
継続

— 具体的な取組内容 —

- 地域福祉保健計画の目標である「誰もが安心して暮らせるまち 認め合い、助け合い、笑顔あふれる「釜利谷」」の実現に向け、ケアプラザを中心に、地域住民、事業所等で構成された会「かまもりやーの」での取り組み「かまもりホルダー」や「あいさつ運動」の継続を行うとともに、この会で築きあげた住民同士のつながりや思いを継続してための新たな場や仕組みづくりを行っていく。
- 認知症になっても安心して住み続けられる地域を目指し、講演会や認知症サポーター養成講座を継続して開催し、あらゆる世代に認知症についての正しい知識と理解を普及啓発していく。また、釜利谷地域ケアプラザ包括エリア内の認知症キャラバン・メイト連絡会等を通じて支援者を増やしていく。
- 住みなれた地域に住み続けるため、地域住民による活動の情報リスト「かまもりやみんなの活動情報（釜利谷みんなの情報シート）」と、お買い物後の配達情報も掲載している「かまもりやお買いものガイド（釜利谷みんなのお買い物情報）」の情報更新を行う。
- 「ケアプラザは気軽に集える場・相談できる場」であることを知っていただくための「釜利谷地域ケアプラザ見学ツアー」を開催する。
- 支援者側が感じる課題やニーズにとらわれない視点での新たな教室や講座、情報提供を行い、より多くの方に福祉・保健サービスを提供していく。また、詐欺被害が多い中、被害に遭わないための注意喚起や予防対策についての啓発をさまざまな方法で行っていく。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度は特に、地域のさまざまな活動やサロン等に職員が積極的に出向き、かまもりホルダー事業の趣旨や役割について周知・アナウンスを行った。その結果、各所から登録会開催の要望が寄せられ、登録者数の増加と事業の認知度向上につながった。かまもりホルダーは、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためのお守りとして、地域づくりの一助となっている。

また、「認知症になっても住み続けられる釜利谷」を目標に掲げ、認知症に関する正しい知識の普及啓発に継続して取り組んだ。認知症の方本人や家族への支援として、月1回開催している認知症カフェ「かまもりやサロン」の実施場所をケアプラザ入口のオープンスペース「うみ」に変更し、誰でも気軽に立ち寄れる環境を整えたことで、新規参加者を含め参加者数の増加が見られ、相談や交流の機会の拡充につながった。

さらに、ケアプラザの役割や事業内容を広く知ってもらうことを目的に、「ケアプラザ見学ツアー」を年2回開催した。1回目は地域の小学生を対象とし、ケアプラザの機能や役割の周知のほか、高齢者とのふれあいの場を設けるとともに、併設の障害者施設の利用者の日中活動や生活の様子も見学コースに組み込み、同じ地域で暮らす多様な人々への理解を深める機会とした。2回目は地区社会福祉協議会役員を対象に実施し、日ごろから地域活動の中心を担う方々にケアプラザの事業や機能を理解してもらい、地域への周知や連携強化につなげることを目的とした。あわせて、障害福祉部門と合同で開催することで、障害者の暮らしや支援への理解を深める機会とした。

詐欺被害が多い地域特性を踏まえ、最新の詐欺の手口や動向に関する情報収集を行い、事業参加者や地域活動の場において注意喚起や啓発を実施した。これにより、被害防止に向けた意識向上を図った。

区からのコメント

職員間および区・関係機関との定例的な情報共有を基盤に、地域サロンや出張講座等で潜在的ニーズを丁寧に汲み取り、相談しやすい環境づくりとインフォーマルサービスの活用促進につなげている点が高く評価できます。
住民主体の取組では、連続講座化や場の工夫により参加者同士の関係性が深まり、地域のつながりが広がっています。
また、民生委員・ケアマネの情報交換会等を重ね、顔の見える関係と課題共有を定着させています。
認知症啓発や認知症カフェに積極的に取り組み、支援者に早めにつながる体制づくりやチームオレンジの推進が進んでいます。虐待対応では迅速かつ丁寧な連携が図られ、ケアプラザ全体で対応されています。民生委員・ケアマネジャー・医療機関との関係構築や社会資源の可視化にも尽力され、地域全体で高齢者を支える土壌づくりにも寄与しています。地域住民に開かれたケアプラザを目指し、地域での認知度向上のために尽力されていますので、今後も引き続き取組をお願いします。